

治療審査委員会申請書類

患者ID :

患者氏名				生年月日			年齢			性別		
診療科			区分	☐ 階病棟 ☐ 外来		申請医師名						
診断名							Stage			Performance Status		
告知内容												
治療方法	プロトコール名 ddAC followed by ddPTX and Trastuzumab療法									告知Grade		
投与計画	身長		cm		体重		kg		体表面積 m ²			
	血清クレアチニン				ml/dl		Cockcroft-Gault		性別無し ml/min			
	※女性に0.85を掛けています											
	◎適応;再発高リスクに対する術前補助・術後補助											
	《dose-dense AC療法 × 4コース》											
	ドキソルビシン _____ mg(標準量60mg/m ²) d1											
	エンドキサン _____ mg(標準量600mg/m ²) d1 インターバル2週											
	※Day2~4(範囲内で変更可能) ヘグフィルグラスチム皮下注3.6mg(エンドキサン投与終了24hr以上経過後に投与)											
	《dose-densePTX + weekly Trastuzumab 療法》											
	パクリタキセル _____ mg(標準量175mg/m ²) d1 インターバル2週 4コース											
※Day2~4(範囲内で変更可能) ヘグフィルグラスチム皮下注3.6mg(パクリタキセル投与終了24hr以上経過後に投与)												
トラスツズマブ 初回 _____ mg(標準量4mg/kg)												
2回目以降 _____ mg(標準量2mg/kg) 8週連続投与												
《tri-weekly Trastuzumab × 15コース》 ※Trastuzumab 合計1年間を完遂												
トラスツズマブ _____ mg(標準量6mg/kg) d1 インターバル3週												
■dose-denseAC療法												
① バロ/セトン点滴静注バック0.75mg/50ml + アロリス235mg 1V + デキサート6.6mg<1.5V> 120ml/hr												
② 生食100ml 本体ルート(終了時に残廃棄)												
③ ドキソルビシン _____ mg + 生食50ml 200ml/hr(15分で) 側管												
④ エンドキサン _____ mg + 生食100ml 200ml/hr 側管												
Day2~4 ヘグフィルグラスチム皮下注3(エンドキサン投与終了後24時間以上経過した後に投与する)												
内服薬 オランザピンOD錠2.5mg 1回2錠 1日1回 夕食後 4日分 (治療当日から4日間服用)												
■dose-densePTX+Trastuzumab療法 (HER単剤投与時は①②のみ投与)												
① 生食100ml 本体ルート(終了時に残廃棄)												
② トラスツズマブ _____ mg + 生食250ml 初回90分、忍容性あれば2回目以降30分まで短縮可												
2回目以降 _____ mg (2mg/kg、毎週の投与量)												
PTX終了後 _____ mg (6mg/kg、3週毎の投与量)												
③ 生食100ml + デキサート6.6mg <3V> + ファモチジン注20mg 1A 200ml/hr												
④ レスタミンコーワ錠 5錠(50mg) 内服 《③と同時に》 ※備考欄												
⑤ 生食50ml PTXルートプライミング・フラッシュ用												
⑥ パクリタキセル _____ mg + 5%糖液500ml 3hrペースで投与												
Day2~4 ヘグフィルグラスチム皮下注3.6mg(パクリタキセル投与終了後24時間以上経過した後に投与する)												
投与開始日 _____ 年 _____ 月 _____ 日												
終了予定 _____ 年 _____ 月 _____ 日												
併用薬の確認	DXR治療以前の治療歴を含め、アントサイクリン系薬剤の総投与量をチェックする。											
B型肝炎check	HBs抗原 () ⇒ HBc抗体 () , HBs抗体 () ⇒ HBV核酸定量 0.9L IU/ml ()											
予測される副作用	骨髄機能抑制、心筋障害、間質性肺炎等の重篤な副作用が起こることがあるので、頻回に臨床検査(血液検査、肝機能・腎機能検査、心機能検査等)を行うこと。また、咳嗽、呼吸困難、発熱等の臨床症状を十分に観察し、異常が認められた場合には、胸部X線、胸部CT等の検査を実施すること。その他、肝機能障害、黄疸、肺炎、急性腎障害など。											
備考	※レスタミン 緑内障、禁忌[抗コリン作用による悪化の為] ⇒ オロパタジン錠5mg PTX;0.22 μm以下のフィルター使用、アルコール不耐患者は投与不可、自動車運転等危険を伴う機械操作は禁止 催吐性リスク;AC(高度)→PTX(軽度)、トラスツズマブ(最小) 組織侵襲に基づく分類;ドキソルビシン(壊死性)、エンドキサン(炎症性)、パクリタキセル(壊死性)、トラスツズマブ(非炎症性) ・オランザピンは糖尿病患者に禁忌です 作用点が重複するため、D2受容体拮抗薬(プリンペラン、ドンペリドン等)との併用は避ける。 主な有害事象は眠気のため、睡眠薬との併用や夜間転倒に十分注意する。											
採否	☐ 承認 ☐ 再検討 ☐ 不許可											

担当委員署名 _____

許可決定日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 有効期限 _____ 年 _____ 月 _____ 日